

2021年3月期第3四半期 決算説明会

1. 地域別市場環境と見通しについて
2. 決算の概要

2021年1月29日

 日立建機株式会社

執行役 営業本部長

先崎 正文

執行役 財務本部長 兼CFO 塩嶋 慶一郎



1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長
先崎 正文

地域別市場環境と見通しについて、先崎よりご説明致します。

● 需要への影響

コンパクト回復基調、コンストラクションの回復はFY21後半の見込み(*)

コンパクト 北米などで旺盛な需要あり、回復基調

*中国市場以外

コンストラクション 中国は他地域に先駆けて回復しFY20全需をけん引
中国以外では、回復基調が見えるが本格回復はFY21後半の見込み

マイニング 足元は資源価格が上昇基調、ただし本格回復はFY21後半の見込み

部品サービス 中小型機から回復基調、マイニング向けの本格回復はFY21後半の見込み

● 当社販売・サービスへの影響

概ね通常通りだが、訪問活動が制限されている地域では、リモート等を活用

● 主要生産拠点への影響

現時点では通常稼働を継続

感染拡大の影響が出ても、生産が継続できるようBCM体制を構築・実施中

● 業績への影響

FY20年間見通し 売上▲1600億円、調整後営業利益▲470億円

新型コロナが当社に与える影響について、ご説明いたします。

需要への影響については、コンパクト製品は、足元、特に北米などで回復基調でございます。

コンストラクションにおいては、中国市場以外でも国によっては回復が見えるものの、新型コロナ再拡大等の不透明感を考慮し、本格回復は21年度後半と見込んでおります。

マイニングについても、資源価格が上昇基調にあるものの、本格回復は今後21年度後半、部品サービスも中小型から回復基調となっておりますが、こちらも21年度後半の本格回復を見込んでおります。需要回復が徐々にみえておりますが、小さな機械から回復しながら、今後大型機への本格需要回復へと繋がっていくものと想定しております。

当社の販売サービス、生産の拠点は、概ね通常通りの稼働でございます。

2020年度の業績影響においては、年度当初に申しあげました通り、コロナ影響を加味する前の昨年2月に策定した予算と比較し、売上で1600億円、調整後営業利益で470億円程度の影響として、織り込んでいます。

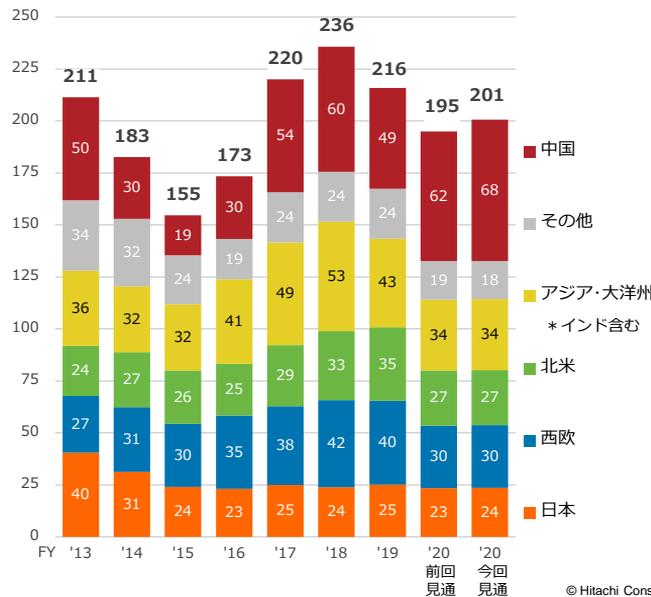
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：20年度 60%（前年比+7%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



地域別需要对前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'19	'20
合計	-8%	-7%
中国	-19%	+40%
ロシア・CIS	+2%	-33%
東欧		
アジア・大洋州	-12%	-29%
中東	+10%	-11%
中南米	+13%	-22%
その他	+3%	-26%
アジア	-19%	-22%
インド	-17%	-22%
オセアニア	-22%	-9%
アジア・大洋州	-18%	-21%
北米	+5%	-24%
西欧	-4%	-25%
日本	+5%	-6%

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 4

油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

20年度の需要見通しは、前回見通し19万5千台に対して6千台増の20万1千台、対前年7%減と変更いたしました。

各地域における需要見通しは、ご覧の通りです。

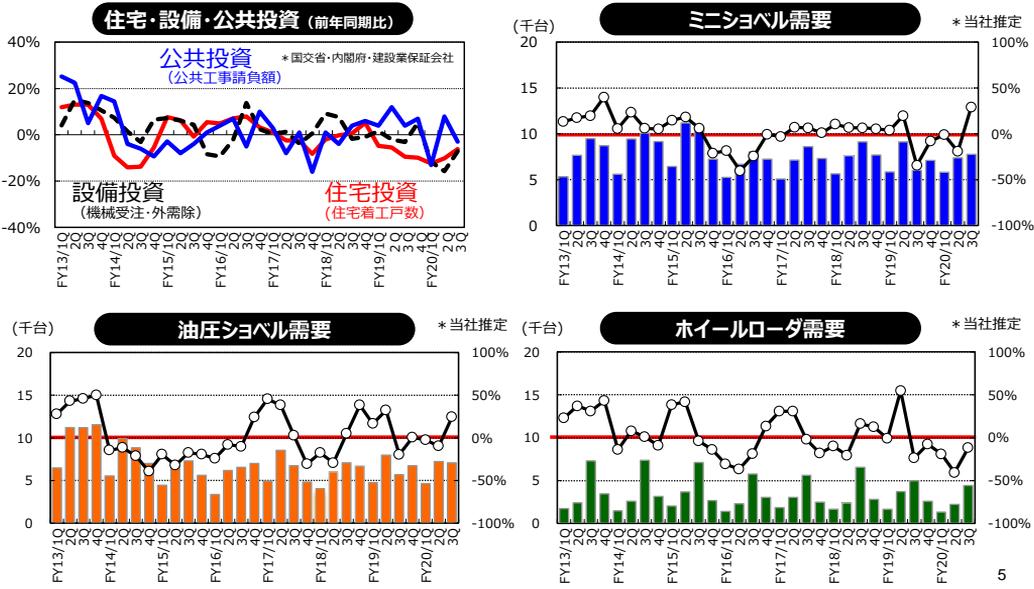
中国では10月から12月の需要実績が大きく上振れしたことに加え、春節需要を含め増加基調も強まっていることにより、前回比6千台増の6万8千台へ上方修正致しました。一方その他地域では強弱混在する状況のため、前回見通しを大きく変更しておりません。

足元では、中国以外でも国によっては需要回復の兆し、が見えてきておりますが、新型コロナの再拡大やワクチン接種時期の不透明感は依然として高く、それに伴う各国経済活動停滞懸念をネガティブサイドとして想定しております。

引き続き今後の市場環境、需要動向を注視すると共に、販売のみでなく生産・供給においても、柔軟に対応できるよう取り組んでまいります。

次に、各地域における第3四半期までの需要実績をご説明申し上げます。

- 住宅投資、設備投資は減少継続。公共投資は微減。
- 需要はWL以外増加：前年同期比 油圧 +24% (累計 +2.8%)、ミニ +29%、WL △12%



日本市場です。

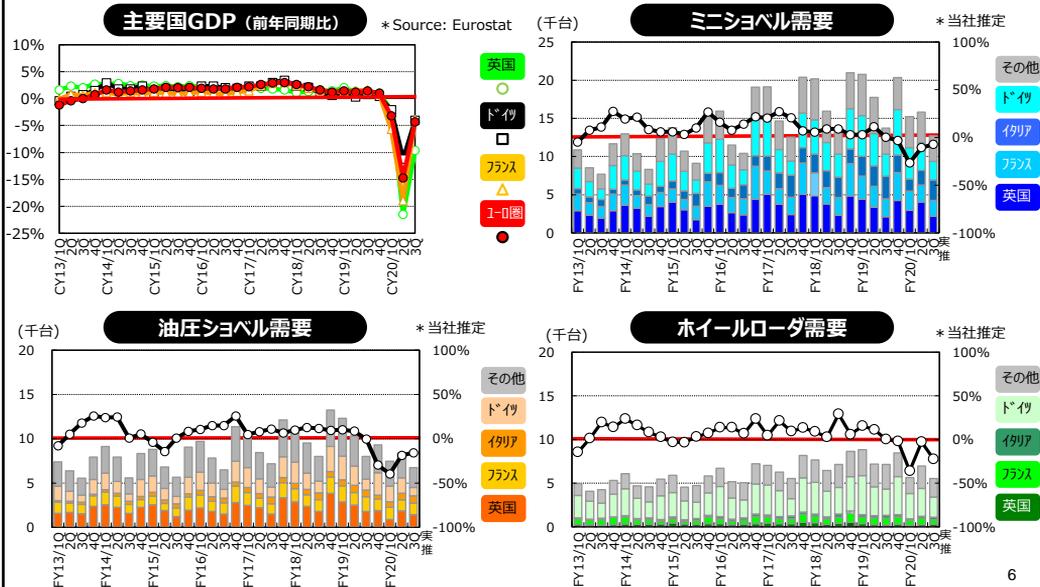
左上、第3四半期の住宅および設備投資は、依然前年同期比で減少しておりますが、前期よりは改善し、公共投資はマイナス3%でございました。

需要においては、左下、油圧ショベルは、19年度第3四半期に台風19号影響による需要減が有った反動で、前年同期比24%の大幅増となりました。

右上のミニショベルは前年同期比29%の大幅増。こちらも昨年度において消費税駆け込み需要が関係する反動と考えております。

右下のホイールローダは12%減となりました。

■ ユーロ圏全体のGDP成長率は前期より回復するも、前年同期比でマイナス成長
 ■ 需要は減少：前年同期比 油圧 △16% (累計△26%)、ミニ △7%、WL △23%

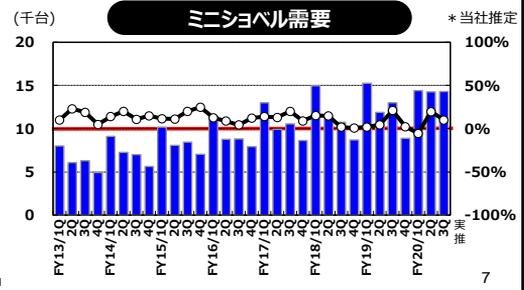
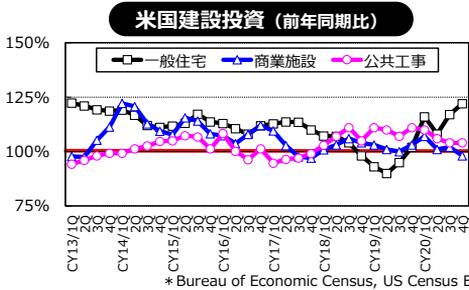
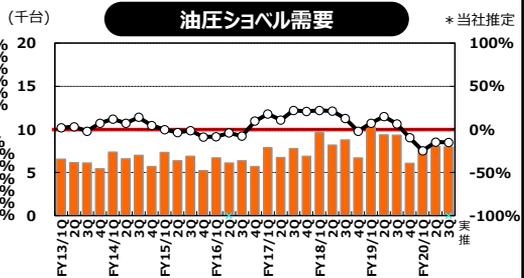
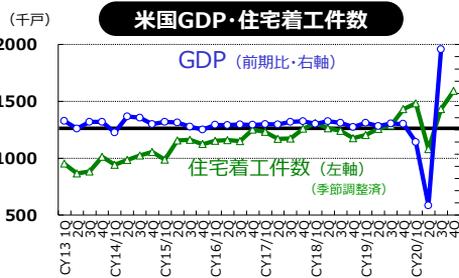


欧州市場です。

2020年7-9月期のユーロ圏のGDP成長率は、前年同期比で、まだマイナス成長ですが、各国において前期よりは回復致しました。

2020年度、第3四半期の需要においては、油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダの3製品ともに、引き続き前年割れの結果となっておりますが、油圧ショベル、ミニショベルの減少幅は回復傾向にあります。

■ 住宅着工件数は増加。建設投資は一般住宅は増加、商業施設、公共工事は横ばい
 ■ 需要は減少：前年同期比 油圧 △15% (累計 △18%)、ミニ+10%



北米市場です。

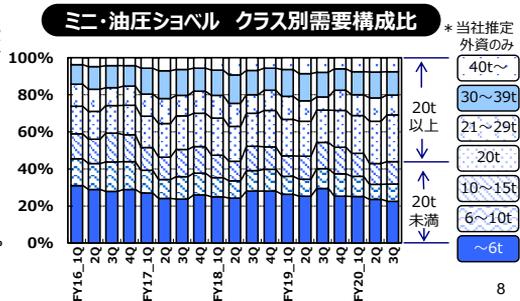
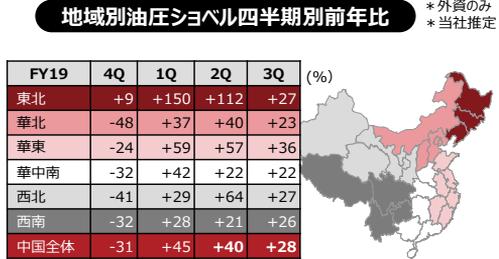
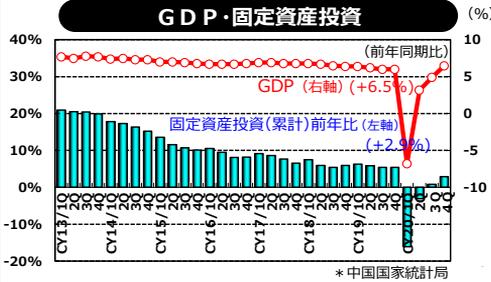
左上のグラフ、住宅着工件数は前年同期比で引き続き増加し、GDPは前期比で大幅に回復しております。

左下の建設投資は、一般住宅が前年同期比で引き続き増加、商業施設と公共工事はほぼ横ばいの推移です。

右上の第3四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比15%減少で、まだ前年レベルに戻っておりません。

一方右下、ミニショベルは堅調な状況が続き10%増加、高い需要水準で推移しております。

- GDP成長率は+6.5%
- 油圧需要は継続して増加（前年同期比+28%（累計+38%）、外資のみ）



中国市場です。

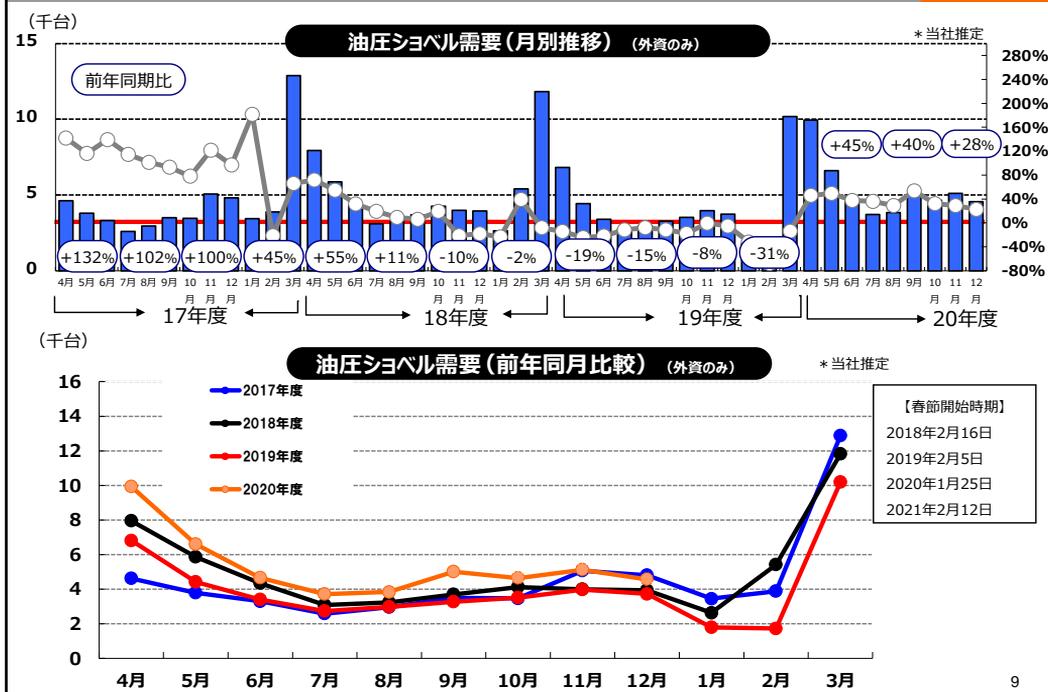
10月から12月期のGDP成長率はプラス6.5%。固定資産投資は前年同期比プラス2.9%と、前期よりさらに回復致しました。

油圧ショベルの需要においては、第3四半期の国産機含めた全需要で前年同期比プラス73%、高水準の需要が続いております。

内訳として国産の需要は2倍、外資は28%の増加となりました。

また、右上の地域別需要推移において、全地域がプラスの伸び率となっております。

クラス別需要構成比は、資料の右下をご参照下さい。

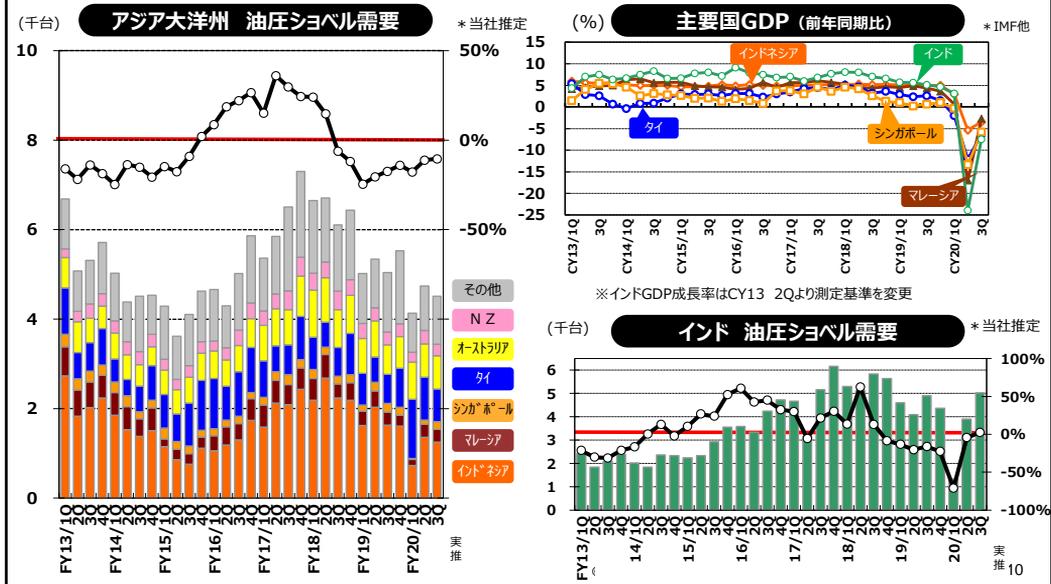


中国市場の補足です。

上側グラフ、外資の月別油圧ショベル需要推移において、20年度第3四半期で前年同期比28%の増加となりました。

昨年4月以降、需要は高い水準であり、春節を迎える第4四半期もこの状況が継続するものと想定しております。

- アジア大洋州の油圧需要は全体では前年同期比 $\Delta 10\%$ (累計 $\Delta 13\%$)
- インドの油圧需要は前年同期比 $+3\%$ (累計 $\Delta 24\%$)



アジア大洋州、インド市場です。

左側のグラフ、アジア・大洋州の油圧ショベルの需要は、前年同期比10%の減少となりました。

10月から12月の需要が前年同期比で増加した国は、政府予算の関係で需要が堅調なタイに加え、オーストラリアでもプラスに転じております。

コモディティ価格が上昇傾向にあるため、インドネシアやマレーシアでも需要が徐々に回復しているとみておりますが、東南アジアにおいても新型コロナウイルス感染の再拡大など、不透明な状況は変わらず、今後も国別の状況を捉えながら需要変動に対応してまいります。

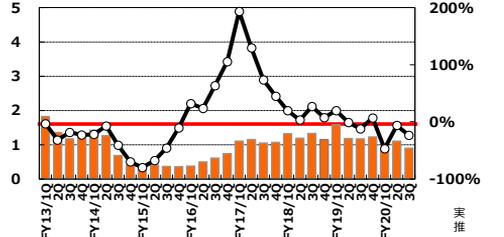
右下グラフのインドの油圧ショベル需要は、公共投資による景気対策により前期よりさらに回復し、前年同期比プラスに転じました。

- ロシアの油圧需要は前年同期比 $\Delta 23\%$ (累計 $\Delta 28\%$)
- 中東の油圧需要は前年同期比 $\Delta 11\%$ (累計 $\Delta 3\%$)

ルーブル為替推移



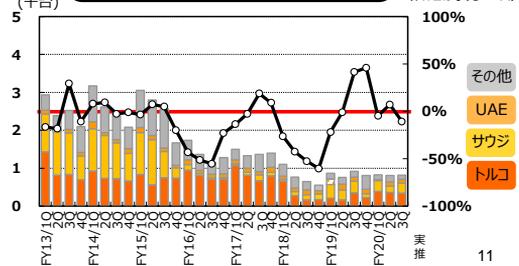
ロシア 油圧ショベル需要



原油・天然ガス価格推移



中東 油圧ショベル需要



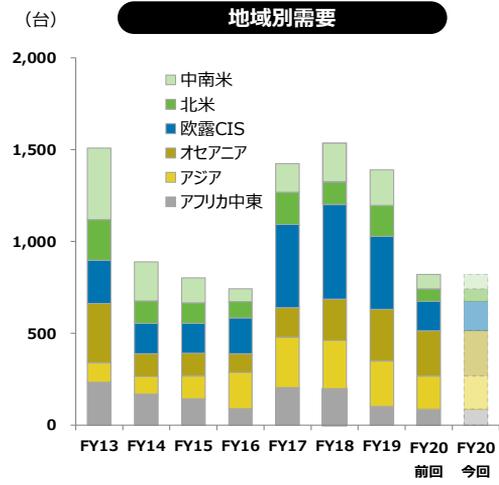
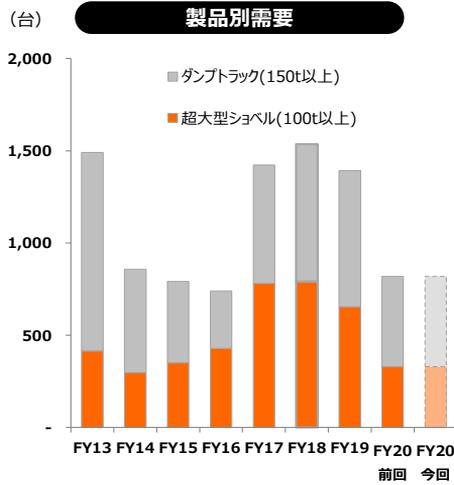
ロシア中東市場です。

右上グラフのロシアの油圧ショベルの需要は、財政面による各プロジェクトの遅延や原油価格の回復遅れで、前年同期比約20%減少です。

右下グラフ、中東の油圧ショベルの需要は、依然低水準のまま、前年同期で約10%減少しております。

- 20年度通年のマイニング需要は前回から変更なし (対前年 ▲40%減少)
- 石炭向け需要は依然低迷しているものの、ハードロック向け需要は堅調

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



※当社調べ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 12

マイニングについてご説明致します。

20年度通期のマイニング需要は、前回から据え置き、前年比40%減少と見通します。

鉱種別では、石炭向け需要は依然低迷しておりますが、高価格で取引されている、鉄鉱石、銅、金鉱山等のハードロック向けとされる本体重量300tを超えるショベル・150tを超えるトラックの需要は、対前年で減少幅は小さく推移しております。



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
 当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 13

BBレシオです。

超大型ショベルは、中小石炭鉱山やコントラクター向けの100トンクラスで、100%を割り込むものの、ハードロック系顧客向け150トンを超えるクラスで100%以上を確保しており、グラフのように超大型ショベル全体でも100%以上を維持しております。

ダンプトラックにおいても、第3Qでオーストラリア、南米での受注があり、100%以上を維持しております。

欧州と日本で連携し、2020年から電動ミニショベルを発売中

- 自動車の電動化シフトが鮮明、建設機械の電動化需要も高まる
- 8トンクラス：欧州市場で2020年約25台受注済、2021年50台目標
- 5トンクラス：2021年度中に日本・欧州市場向けに発売する予定
- 両モデルともにリチウムイオン電池を搭載、バッテリー駆動と商用電源の併用可



<p>European Application Center</p>  <p>欧州市場ニーズに迅速に対応すべく 現存モデルをベースに開発</p>	 <p>日立建機 日立建機ティアラ</p> <p>狭所作業性を重視し開発した 後方超小旋回電動ミニショベル</p>	
		
<p>試作機2トン</p>	<p>8トンクラス(発売中)</p>	<p>試作機5トンクラス</p>

ここからはトピックです。

近年、自動車の電動化シフトと共に、建設機械の電動化需要も高まっております。

日立建機グループでは、欧州のEAC社と、ミニショベルなどの開発・製造・販売を行う日立建機ティアラが連携し、車体重量2トン・5トン・8トンの電動ミニショベルを開発済みです。電動化需要の高まりに応じて、2020年に欧州市場で8トンクラスの発売を開始し、約25台を受注致しました。2021年は50台の受注目標を掲げています。

また、5トンクラスは、お客さまの現場でのユーザーテストにおいて良好な評価を得ており、2021年度中に日本・欧州市場向けに発売する予定でございます。

両モデルともにリチウムイオン電池を搭載し、バッテリー駆動と商用電源の併用が可能な仕様となっています。

トピック：中国の新たな市場ニーズに対応し、体制を強化

HITACHI

Reliable solutions

土木専用機のラインアップを拡充

- 需要のボリュームゾーンである個人事業主がメインターゲット
- 都市土木に最適な仕様・構造と、高いコストパフォーマンスを実現
- 収集した稼働データを、今後の製品開発や販売戦略に活用



6トクラス

12トクラス

20トクラス

販売・サービス体制を強化

- 地域事務所を成都・北京・上海の3か所に設置し、より近くで販売代理店をサポート
- 営業活動や営業プロセス管理を共通化するセミナーを開始

レンタル・中古車事業を連携、バリューチェーン事業を深化

- 自社レンタル機を良質な中古車「PREMIUM USED」として販売



全国代理店会議

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 15

次に、中国市場での取り組みをご紹介します。

中国市場において、個人事業主への拡販を目指し、体制の強化を行っております。製品展開では、個人事業主をメインターゲットにした土木専用機の製品ラインアップを拡充致しました。3機種種の稼働データやマーケティング活動により、今後の中国市場向けモデルの仕様開発や販売戦略に活用していきます。

また、販売・サービス体制において、中国の現地法人が昨年10月、新たに地域事務所を成都・北京・上海の3カ所に設置し、より近くで販売代理店をサポートし、セミナーを開催するなど、販売・サービス体制の強化を図っております。

さらに、レンタル事業と中古車事業を連携させて、自社レンタル機を良質な中古車「PREMIUM USED」として販売していきます。

日立建機グループの事業活動を通じたESGへの取り組みを説明



E：環境課題の解決

- ・ハイブリッド建機や電動化による製品の環境性能の向上
- ・中古車、部品再生事業で廃棄物削減とCO₂低減
- ・製品生産時のCO₂排出量、水使用量の低減
- ・マイニング事業ではハードロック鉱山に向けて注力
- ・気候変動対策に向けシナリオ分析を行い、TCFDに賛同

S：社会課題の解決

- ・ICT建機や自律建機の開発、普及による安全性向上
- ・IoT活用の「ConSite[®]」でライフサイクルコストの低減
- ・中古車、部品再生事業を通じてコミュニティ発展に貢献

G：ガバナンスの強化

- ・取締役会の多様性の推進、実効性評価と改善
- ・グループ全体の品質レベルを向上、標準化
- ・自らが「学ぶ」「育つ」風土を通じた人財育成

【関連リンク】ESG説明会の発表資料、動画をご覧ください

資料：[日立建機グローバルサイト投資家向け情報](#)

動画：[日立建機 公式YouTubeチャンネル](#)

主なKPI

製品ライフサイクル・生産でCO₂削減

2022年度	2030年度
製品▲20%	製品▲33%
生産▲25%	生産▲45%

事故低減機能の搭載

2022年度	2030年度
人と機械の 協調制御実現	転倒・死亡事故 「ゼロ」への貢献

社外取締役、女性・外国人取締役

2022年度	2030年度
社外取締役：1/3超 女性・外国人：2名以上	事業強化・ガバナンス 向上に適した体制へ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 16

2020年12月15日、メディアおよびアナリスト・機関投資家の皆さまを対象に、ESG説明会を初めて開催し、事業活動を通じたESGへの取り組みと具体的なKPIをご紹介します。

ご参加いただいたアナリストやメディアの方々からは「積極的に環境課題、社外課題の解決に取り組んでいる」、

「トップが主導し、全社で堅実に取り組んでいることを確認できた」などの高評価をいただきました。

引き続き、「豊かな大地、豊かな街を未来へ」というSDGsの趣旨に沿った企業ビジョンを掲げ、事業活動を通して環境課題や社会課題の解決、ガバナンス強化を進めてまいります。本説明会の発表資料と説明会動画は、こちらのURLからご覧いただけますので、ぜひご参照ください。

資料：<https://www.hitachicm.com/global/wp-content/uploads/2020/12/20201215-HCM-ESG-J.pdf>

動画：<https://youtu.be/LkfXVjja2K0>

以上で説明を終わります。有難うございました。

2. 2021年3月期第3四半期 決算説明

執行役 財務本部長 兼CFO
塩嶋 慶一郎

続きまして、塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第3四半期におけるCOVID-19の影響や為替円高影響△137億円により、売上収益は前年同期比19%減収、調整後営業利益は69%減益。

(単位：億円)

		20年度 第3Q累計	19年度 第3Q累計	前年同期比 増減率
売上収益		5,587	6,872	△19%
調整後営業利益 *1		(3.3%) 183	(8.5%) 587	△69%
営業利益		(2.7%) 152	(8.3%) 574	△73%
税引前四半期利益		(2.1%) 118	(8.1%) 558	△79%
親会社株主に帰属する 四半期利益		(0.6%) 31	(5.1%) 351	△91%
EBIT *2		(2.6%) 144	(8.6%) 593	△76%
為 替	アメリカドル	106.1	108.6	△2.5
	ユーロ	122.8	121.1	1.7
	中国元	15.4	15.7	△0.3
	オーストラリアドル	74.2	74.9	△0.7

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 18

20年度第3四半期 累計期間の売上収益は、新型コロナ、為替円高の影響が大きく、前年同期比19%減の5,587億円、
調整後営業利益は、前年同期比69%減の183億円で、利益率3.3%、
営業利益は152億円で利益率2.7%でありました。

親会社株主帰属の当期利益は、前年同期比91%減の31億円でありました。

また、同 累計期間の為替レートは対前年同期比で、
米ドルが2.5円の円高、ユーロは1.7円の円安、
元は0.3円、オーストラリアドルは0.7円の円高でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中国及び中東を除き各地域で前年同期比減収となり、連結合計では△1,285億円の大減収。

(単位：億円)

	20年度 第3Q累計		19年度 第3Q累計		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	1,426	26%	1,454	21%	△ 28	△2%
アジア	346	6%	641	9%	△ 295	△46%
インド	323	6%	386	6%	△ 63	△16%
オセアニア	1,025	18%	1,084	16%	△ 59	△5%
欧州	546	10%	736	11%	△ 190	△26%
北米	714	13%	1,300	19%	△ 587	△45%
中南米	78	1%	102	1%	△ 23	△23%
ロシアCIS	173	3%	250	4%	△ 77	△31%
中東	100	2%	49	1%	51	105%
アフリカ	241	4%	283	4%	△ 43	△15%
中国	615	11%	587	9%	29	5%
合計	5,587	100%	6,872	100%	△ 1,285	△19%
海外売上収益比率	74%		79%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 19

当四半期 累計期間の売上収益は、新型コロナウイルスの影響が大きく、前年同期比 マイナス1,285億円の減収となりました。なお、その内数として、為替円高の影響を マイナス137億円と分析しております。

地域別でも、中国、及び中東を除き、全ての地域で前年同期 減収となりました。

特にアジア、北米において大幅な減収となりましたが、第3四半期3ヵ月としては、同2地域、並びに中南米とアフリカを除いた 全地域で前年同期 増収となりました。

なお、海外売上収益比率は、前年同期比5ポイント減の74%となりました。

マイニング売上収益推移

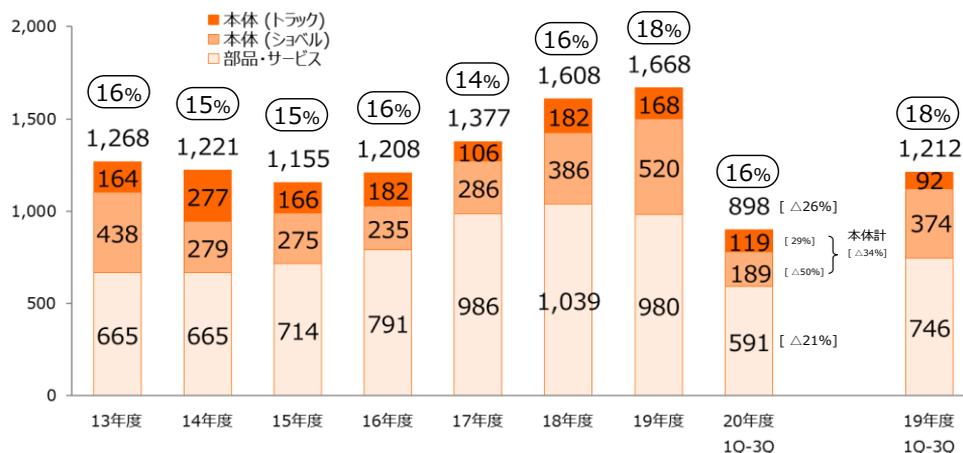
HITACHI

Reliable solutions

当第3四半期は、為替円高影響△58億円もあり、前年同期比26%減の898億円。

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年同期比 伸び率

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 20

当四半期累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに898億円と、前年同期比26%の減収でした。

なお、為替円高影響は5%相当のマイナス58億円と分析しております。

本体売上が34%の減収で、内訳としてはトラックについては29%増加した一方、ショベルは同累計期間の納入案件が少なく50%の減収でした。

また、マイニング向け部品サービスも、前年同期比21%の減収となりました。

なお、連結売上収益に占めるマイニング売上収益の比率は16%と、前年同期より2ポイント低下しました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

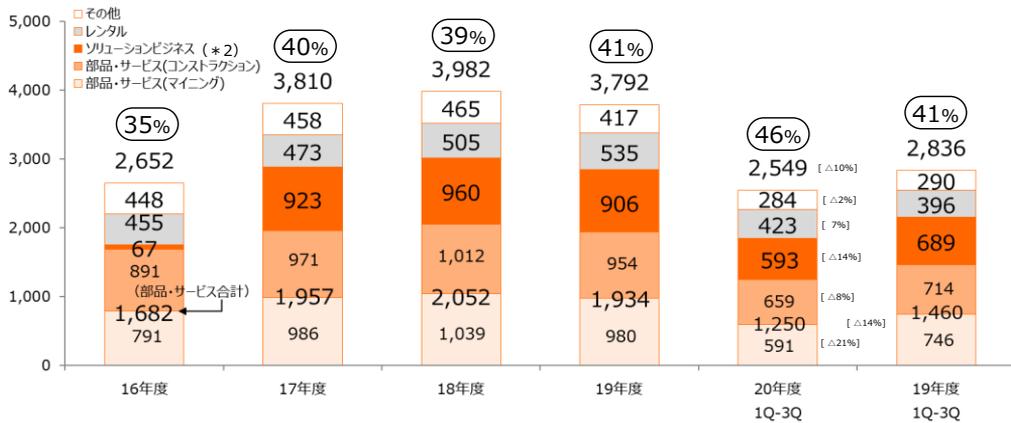
HITACHI

Reliable solutions

当第3四半期は、レンタル事業が前年同期比7%増加となったが、為替円高影響△63億円もあり、合計では前年同期比10%減収の2,549億円。

(単位：億円)

(注) (○) = 全社売上収益に占める比率
[%] = 前年同期比 伸び率



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 21

当四半期 累計期間のバリューチェーン売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに、前年同期比10%減の2,549億円でした。

為替円高影響を2%相当の減収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年同期比で8%の減収でした。

内訳としましては、棒グラフの上段から2段目、グレー色のレンタル事業は、これまでの施策効果により、前年同期比で7%の増収となりましたが、部品・サービス合計は、前年同期比14%の減収となりました。

なお、連結売上収益に占めるバリューチェーン売上収益の比率は46%と、前年同期より5ポイント増加しました。

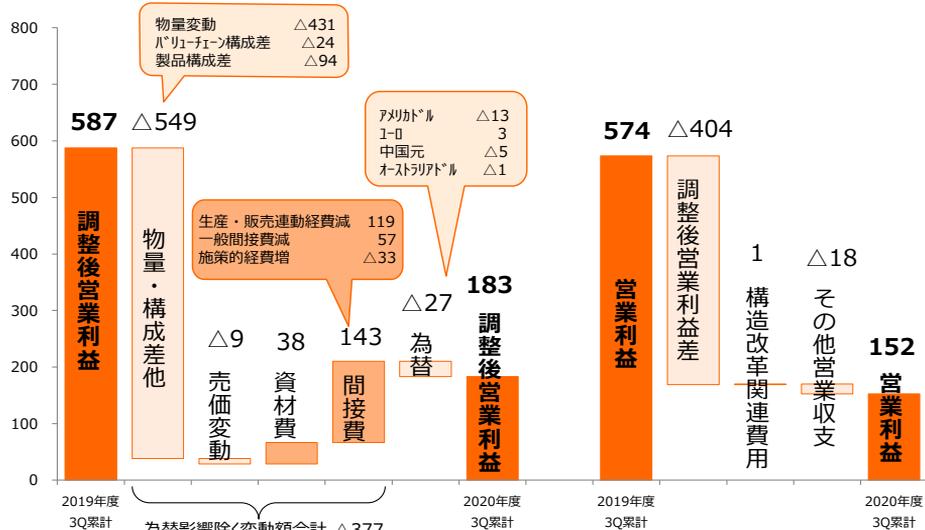
連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、COVID-19影響含め物量・構成差減、売価ダウン及び為替円高影響等により、間接費低減及び資材費低減はあるも前年同期比で404億円の減益。

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 22

調整後営業利益が、前年同期比404億円の減益を余儀なくされた要因をご説明いたします。

新型コロナの影響は引き続き大きく、全世界で深刻な需要減退に見舞われ、これまでご説明致しました通り、大幅な減収を余儀なくされたことから、物量・構成差で549億円もの減益要因となりました。

加えて、主に中国での販売価格引き下げによる、売価変動9億円の減益影響もありましたが、一方で国内、並びにオーストラリアにおける資材費改善効果38億円、並びに、大幅減収に対応して、生産・販売連動経費を主体に143億円もの間接費低減を図りました。

為替円高影響マイナス27億円の結果、調整後営業利益は、前年同期比404億減益の183億円となりました。

また、構造改革関連費用では前年同期比で1億円の改善となった一方、その他営業収支においては、新型コロナによる休業補償3億円の発生等により18億円の減益となりました。

その結果、営業利益は、前年同期421億円減益の152億円となりました。

要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

- 販売費・管理費は1,174億円と前年同期比△145億円の低減。
- 金融収益及び費用は△41億円と前年同期比2億円の改善。

(単位：億円)

	20年度 第3Q累計	19年度 第3Q累計	前年同期比	
			金額	増減率
売上収益	5,587	6,872	△1,285	△19%
売上原価	(75.7%) 4,230	(72.3%) 4,965	△735	△15%
販売費・管理費	(21.0%) 1,174	(19.2%) 1,319	△145	△11%
調整後営業利益 *1	(3.3%) 183	(8.5%) 587	△404	△69%
その他の収益及び費用	△31	△14	△17	122%
営業利益	(2.7%) 152	(8.3%) 574	△421	△73%
金融収益及び費用	△41	△43	2	△4%
持分法投資損益	7	27	△21	△75%
税引前四半期利益	(2.1%) 118	(8.1%) 558	△440	△79%
法人所得税費用	55	163	△109	△67%
四半期利益	(1.1%) 64	(5.8%) 395	△331	△84%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(0.6%) 31	(5.1%) 351	△320	△91%

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 23

ここでは、営業外収益以下をご説明します。

金融収益・及び費用は、主として支払利息の減により、前年同期比2億円改善となりました。

一方、持分法損益は、前年同期比21億円の減少でした。

新型コロナ禍にて持分法各社の業績が悪化、特に米州の会社が大幅に悪化したことが原因です。

また、法人所得税費用は、前年同期比109億円の減少でした。

新型コロナ影響による需要減に対処すべく、当年度上期に生産調整を行ってきたため、日立建機単体で税効果会計のメリットが得られず、法人税の表面税率は依然として、前年同期比で高い状況にあります。第3四半期では(単体課税所得の赤字幅改善もあり、)改善が進みました。

然しながら、非支配持分損益の流出の割合が依然として大きく、親会社株主に帰属する当期利益は、前年同期比91%減の31億円となりました。

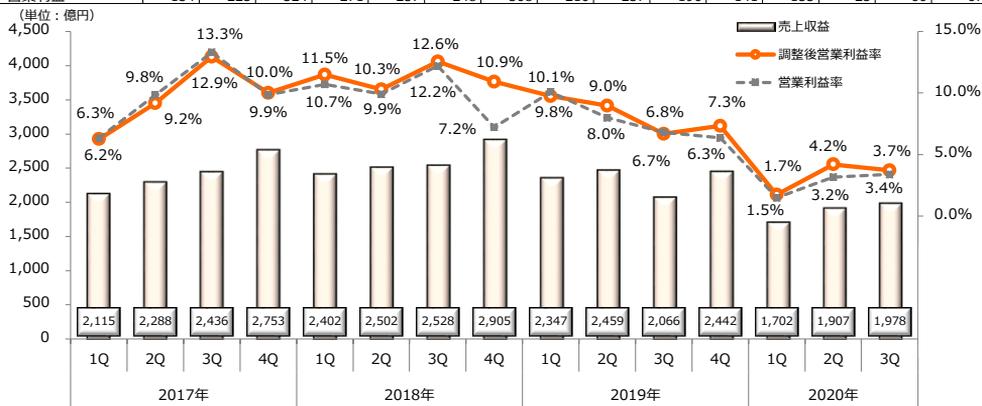
要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions

(単位:億円)

	2017年				2018年				2019年				2020年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上収益	2,115	2,288	2,436	2,753	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907	1,978
調整後営業利益	132	210	315	275	276	258	318	317	229	221	138	179	29	80	74
営業利益	134	225	324	271	257	248	308	210	237	196	141	155	25	60	67



四半期別 為替レート	2017年				2018年				2019年				2020年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
アメリカドル	111.1	111.0	113.0	108.3	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2	104.5
ユーロ	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1	124.5
中国元	16.2	16.6	17.1	17.1	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4	15.8
オーストラリアドル	83.4	87.6	86.8	85.3	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9	76.3

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 24

一番右側の20年度 第3四半期をご覧下さい。

当四半期の売上収益は1,978億円となり、前年同期 2,066億に対して88億の減収となりましたが、当 第2四半期と比較しては71億の増収となりました。
また、調整後営業利益率は、折れ線グラフに示した通りに3.7%となりました。

新型コロナ禍において、製品、及び地域構成差による減益要因がありました
が、第1四半期からは総じて改善傾向にあります。

当四半期末の営業債権は、前年度末より△403億円の大幅圧縮。

(単位：億円)									
	(A) 20年3Q	(B) 19年度末	(C) 19年3Q	(A)-(B) 増減		(D) 20年3Q	(E) 19年度末	(F) 19年3Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	684	622	637	63	営業債務及びその他債務合計	1,741	1,887	1,986	△147
営業債権	1,723	2,125	1,897	△403	社債及び借入金	3,352	3,389	3,422	△38
棚卸資産	3,089	3,012	3,434	77	負債の部合計	6,266	6,425	6,629	△159
流動資産計	5,863	6,128	6,452	△265	(親会社所有者帰属持分比率)	(41.6%)	(40.6%)	(40.5%)	(1.1%)
非流動資産合計	5,792	5,548	5,634	245	資本の部合計	5,390	5,251	5,457	139
資産の部合計	11,655	11,676	12,086	△20	負債・資本の部合計	11,655	11,676	12,086	△20
非流動を含めた営業債権	2,103	2,521	2,261	△418					
棚卸資産 内訳					有利子負債計	3,352	3,389	3,422	△38
本体	851	762	1,008	89	現金及び現金同等物	684	622	637	63
部品	1,050	1,030	1,129	20	ネット有利子	(22.9%)	(23.7%)	(23.0%)	(△0.8%)
その他	1,187	1,220	1,296	△33	負債	2,668	2,768	2,785	△100
棚卸資産計	3,089	3,012	3,434	77					
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/レシオ	0.55	0.58	0.57	△0.03
営業債権 (非流動含む)	96	99	84	△3					
棚卸資産	140	118	128	22					
営業債務	44	43	46	1					
正味運転資金	188	171	164	17					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 25

対前年度末20年3月比較では、非流動を含めた営業債権が2,103億円と、418億円 圧縮しました。

棚卸資産は、3,089億円と、前年度末よりも77億円 増加しましたが、為替影響を勘案すれば、逆に32億円の縮減と分析しております。

なお、賃貸用営業資産をはじめ、固定資産の取得により、総資産は11,655億円と、前年度末より20億円 圧縮しました。

手持日数は、営業債権を前年度末より3日短縮の96日に縮減しましたが、一方で棚卸資産は、22日延伸の140日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも17日延伸した188日となりました。

右側の有利子負債計は前年度末よりも38億円 縮減した3,352億円となりましたが、一方で現預金を63億円積みましたこともあり、ネット有利子負債は100億円 縮減の2,668億円となりました。

資本合計は5,390億円で、親会社所有者 持分比率は41.6%、ネットDEレシオは0.55となりました。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

- 営業キャッシュ・フローは、運転資本の改善により前年同期比363億円増の567億円のポジティブ。
- フリーキャッシュフローも前年同期比416億円増の335億円のポジティブ。

(単位：億円)

	20年度 第3Q累計		19年度 第3Q累計		前年同期比 増減額	
四半期利益		64		395		△ 331
減価償却費	441	377	727	332	△ 286	45
売掛金及び受取手形の増減		526		509		18
棚卸資産の増減	338	32	△ 60	△ 235	398	266
買掛金及び支払手形の増減		△ 220		△ 334		114
その他		△ 211		△ 462		251
営業活動に関するキャッシュ・フロー		567		205		363
営業キャッシュ・フロー・マージン率		10.2%		3.0%		7.2%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 233		△ 285		53
フリー・キャッシュ・フロー		335		△ 81		416
財務活動に関するキャッシュ・フロー		△ 290		54		△ 344

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 26

当第3四半期累計期間の営業キャッシュフローは、567億円のポジティブとなり、前年同期比で363億円の改善となりました。

また、投資キャッシュフローを前年同期比53億円減の233億円の支出と抑制したことから、フリーキャッシュフローも、前年同期比416億円改善の335億円の収入となりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度連結損益計算書は10月見直しから変更なし。

(単位：億円)

	20年度		19年度	前年比	
	予想		実績	金額	増減率
売上収益	7,700		9,313	△ 1,613	△ 17%
	(5.2%)		(8.2%)	(△ 3.0%)	
調整後営業利益	400		766	△ 366	△ 48%
	(4.7%)		(7.8%)	(△ 3.1%)	
営業利益	360		728	△ 368	△ 51%
	(4.4%)		(7.2%)	(△ 2.8%)	
税引前当期利益	340		671	△ 331	△ 49%
	(2.6%)		(4.4%)	(△ 1.8%)	
親会社株主に帰属する当期利益	200		412	△ 212	△ 51%
EBIT	376		716	△ 340	
通貨	1Q-3Q	4Q	年度	19年度	前年比
	実績	予想	予想	実績	
アメリカドル	106.1	105.0	105.7	108.7	△ 3.0
ユーロ	122.8	120.0	121.8	120.8	1.0
中国元	15.4	15.0	15.3	15.7	△ 0.4
オーストラリアドル	74.2	72.0	73.6	74.1	△ 0.5
1株当たり配当金 *1			未定	60円	-

為替感応度は参考資料1をご参照ください

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 27

20年度の需要環境、並びに当 第3四半期累計期間の実績や、世界の先行きの経済状況、為替動向を鑑み、現時点の今年度業績予想は、前回予想を据え置きます。

具体的には、前回10月公表値の売上収益7,700億円、調整後営業利益400億円、親会社株主に帰属する当期利益 200億円を据え置きます。

第4四半期の予想為替レートも変更しておりません。

P.32に、参考資料1.として、第4四半期の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度連結売上収益は、COVID-19影響及び予想為替レートの円高影響△165億円により、前年比1,613億円の減収を見込む。

(単位：億円)

	20年度 予想		19年度 実績		前年比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	1,964	26%	2,056	22%	△92	△4%
アジア	489	6%	859	9%	△370	△43%
インド	435	6%	507	5%	△72	△14%
オセアニア	1,364	18%	1,460	16%	△96	△7%
欧州	755	10%	1,036	11%	△281	△27%
北米	1,074	14%	1,734	19%	△660	△38%
中南米	117	2%	129	1%	△12	△9%
ロシアCIS	247	3%	326	4%	△79	△24%
中東	120	2%	76	1%	44	59%
アフリカ	313	4%	380	4%	△68	△18%
中国	823	11%	750	8%	73	10%
合計	7,700	100%	9,313	100%	△1,613	△17%
海外売上収益比率	74%		78%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 28

20年度売上収益について、前回予想7,700億円を据え置きとする旨、ご説明しましたが、その地域別の予想となります。

中国、中東については、前年比で増収を見込む一方、アジア、欧州、北米、ロシアCISでは、為替円高影響を含めて、前年比20%以上の大幅な減収を予想しています。

マイニング売上収益推移(予想)

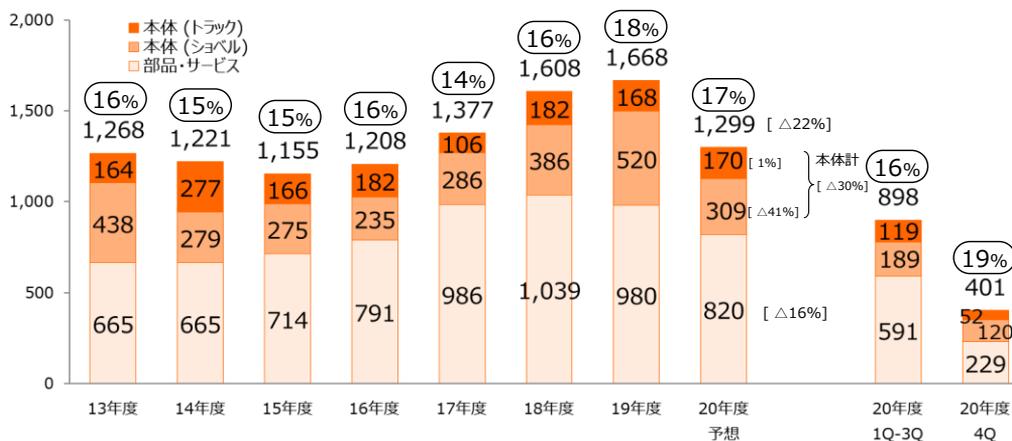
HITACHI

Reliable solutions

20年度は、予想為替レートの円高影響△59億円もあり、前年比22%減収の1,299億円を見込む。

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年比 伸び率

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 29

20年度のマイニング売上収益予想は、前年比22%減収の、1,299億円と、前回10月公表値を61億円下方修正します。

マイニング機械本体はトラックとショベル合計で、前年比30%の減収を見込む他、マイニング向け部品サービスも予想為替レートの円高影響を含めて、前年比16%減収の予想です。

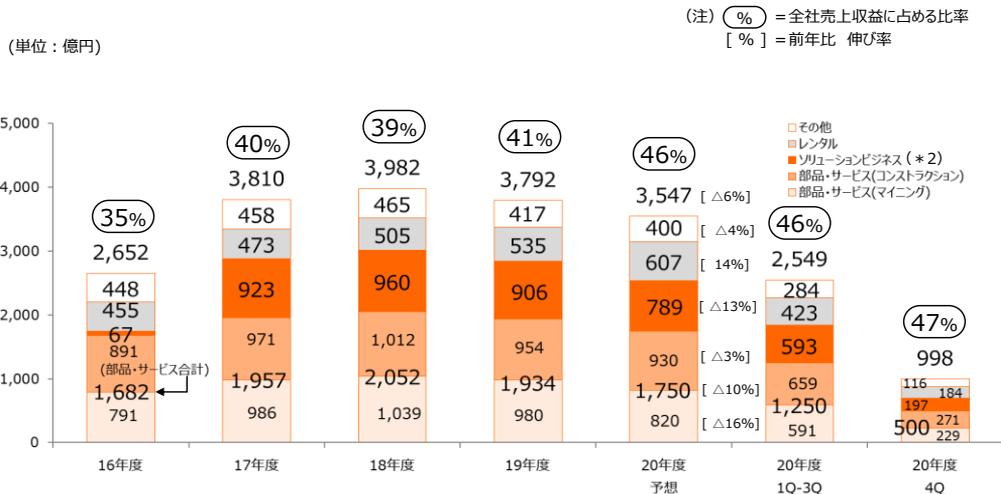
なお、P. 33に参考資料2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度は、レンタル、中古車等の売上増あるも、部品サービスのCOVID-19影響による減収及び予想為替レートの円高影響△69億円により、合計では前年比6%減収を見込む。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 30

20年度のバリューチェーン売上収益予想は、前年比6%減収の3,547億円と、前回10月公表値を40億円下方修正致します。

今回見通しでは、部品サービスを前年比10%減収の1,750億円と前回公表値を据置きます。内訳についてはマイニング向けを40億円 減額し、同額を当 四半期に入って復調傾向にある 新車油圧販売 同様、コンストラクション向けで増額しました。

一方、レンタルは同14%増収の607億円、ソリューションビジネスにおいても同13%減収の789億円といずれも 下方修正しました。

また、最上段の『その他』、主に中古販売やソフト事業、ファイナンス等が含まれますが、こちらも前年比4%減収の400億円に下方修正しました。

なお、売上構成比は、前年比5ポイント増加の46%を確保します。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

20年度4Q予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定。

為替レート及び為替感応度

(単位：億円)

通貨	為替レート		感応度(4Q)		
	20年度 予想	19年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
アメリカドル	105.7	108.7	1円円安になった場合	4	3
ユーロ	121.8	120.8	1円円安になった場合	2	1
中国元	15.3	15.7	0.1円円安になった場合	2	1
オーストラリアドル	73.6	74.1	1円円安になった場合	5	1

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		19年度実績			20年度見通し			差額		
		1-3Q累	4Q	年度	1-3Q累	4Q	年度	1-3Q累	4Q	年度
米州	ショベル	112	71	182	79	34	113	△ 33	△ 37	△ 69
	トラック	30	8	39	9	16	25	△ 21	7	△ 14
	計	142	79	221	88	50	138	△ 54	△ 29	△ 83
欧阿中東	ショベル	168	62	230	108	65	173	△ 60	3	△ 57
	トラック	99	30	129	96	39	135	△ 4	9	6
	計	267	92	359	204	104	308	△ 63	12	△ 51
アジア・大洋州	ショベル	571	163	734	363	170	533	△ 208	7	△ 201
	トラック	213	117	329	227	66	293	14	△ 51	△ 36
	計	783	280	1,063	590	236	826	△ 194	△ 44	△ 238
中国	ショベル	6	1	6	4	4	8	△ 2	3	2
	トラック	1	0	1	1	0	1	△ 1	0	△ 1
	計	7	1	8	4	4	9	△ 2	4	1
日本	ショベル	13	4	17	9	7	16	△ 4	3	△ 1
	トラック	0	0	0	3	0	3	3	△ 0	3
	計	13	4	17	12	7	19	△ 1	3	2
合計	ショベル	869	301	1,169	563	280	843	△ 306	△ 21	△ 326
	トラック	343	155	498	335	121	456	△ 8	△ 34	△ 42
	計	1,212	456	1,668	898	401	1,299	△ 314	△ 55	△ 369

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。
20年度第3四半期実績には3億円、20年度予想には11億円がそれぞれ含まれております。

(単位：億円)

20年度 第3Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	4,995	616	△ 24	5,587
調整後営業利益	2.6% 129	8.7% 54	-	3.3% 183

(単位：億円)

20年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	6,911	789	0	7,700
調整後営業利益	4.8% 335	8.2% 65	-	5.2% 400

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに所属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 34

日立建機グループでは、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

END**お問い合わせ** **日立建機株式会社**

ブランド・コミュニケーション本部